

【これは速報であり、数値等は今後も変わることがある】

北朝鮮の核実験について

平成29年9月3日（18：15現在）
官 邸 対 策 室
※日時は、特段の注記のない限り日本時間

1. 事案の概要

9月3日12時31分頃、北朝鮮付近において自然地震ではない可能性がある地震を検知

2. 地震波分析の概要（気象庁）

平成29年9月3日12時31分頃、気象庁が、北朝鮮付近を震源とする地震波を検知

（1）地震を検知した時刻

平成29年9月3日12時31分頃

（2）地震の発生時刻・震源・規模等

ア 時刻：12時29分57秒（地震記録から推計した地震の発生時刻）

イ 震源：北緯41.3度、東経129.1度

ウ 深さ：0km

エ 規模：マグニチュード 6.1

3. 政府の主な対応

12：38 総理指示

- 関係省庁においては、緊張感を持って情報収集・分析に努めること。
- 国民に対して的確な情報提供を行うこと。
- 米国、韓国、中国及びロシアを始めとする関係諸国と連携を図ること。

12：55 事実関係を公表（内閣官房）

13：08 緊急参集チーム協議開始

13：09 総理会見（ぶら下がり）

13：10 事実関係を公表（気象庁）

13：14 官房長官会見

13：34頃 国家安全保障会議（四大臣会合）

13：51 総理指示（二回目）

- 北朝鮮の今後の動向等に関し、情報収集・分析の徹底を期すこと
- 核実験に伴う放射性物質の影響を把握するため、関係各国と連携しモニタリング態勢を強化すること
- 不測の事態にも備えるなど、国民の安全・安心の確保に万全を期すこと

【これは速報であり、数値等は今後も変わることがある】

- 14 : 15 気象庁会見
- 14 : 45 官房長官会見にて内閣総理大臣声明発表
- 17 : 02頃 国家安全保障会議（四大臣会合）（二回目）
- 17 : 53 官房長官会見
- 18 : 08 総理会見（ぶら下がり）

4. 外交上の主な対応

北京の「大使館」ルートを通じて、北朝鮮に対して厳重に抗議し、最も強い表現で断固として非難。

米国、韓国及びエチオピア（安保理議長国）との間で、安保理緊急会合の開催に向けた調整を開始

14時過ぎ谷内国家安全保障局長とマクマスター米国家安全保障担当大統領補佐官との電話会談

16 : 23 金杉アジア大洋州局長と金烘均（キム・ホンギョン）韓国外交部朝鮮半島平和交渉本部長との意見交換（電話）

17 : 40 河野外務大臣とハガティ駐日米国大使の会談

18 : 00 河野外務大臣と康京和（カン・ギョンファ）韓国外交部長官との電話会談

5. モニタリングの強化

13 : 52 放射能対策連絡会議議長指示を発出

○ 航空自衛隊機による高空の大気浮遊じん等の採取・測定

○ 都道府県等における地上の大気浮遊じん等や降下物の採取・測定、空間放射線量率の測定

13 : 56以降 三沢等の各基地で集じんのためT-4が飛行

15時現在、放射性物質に関する異常値の検出なし。